

西國
三十三
所

觀音靈場記圖會
一

八波4
1807
5-1



西國
三十
三所

觀音靈場記圖會一

八波4
1807
5-1

觀音靈場記圖會

八波生
1807
弘 5-1

冬 己 乙 化 弘

西國三
十三所



觀音靈場記圖會

厚譽春鶯和上舊述
辻本基定圖會撰次



西國^{三十}觀音靈場記圖會序



夫微妙圓通大士觀自在菩薩
者於過太無數劫成正覺彌
王灑妙如來無雖爾猶大悲深
重而慇當今闕浮之衆生還來
於吾日域現世之應身形普度
脫衆類傳聞往昔華山上皇

見三書卷之四

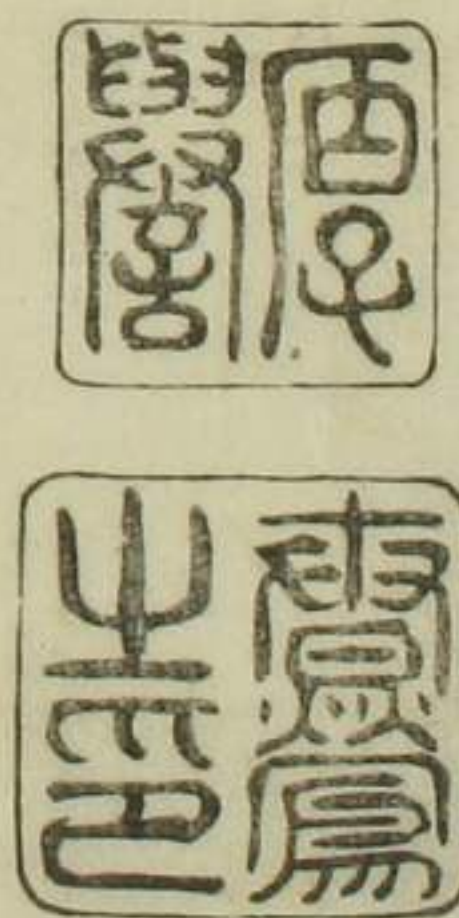
歸心於佛乘而躬巡回名山靈
區殊求觀音靈場凡於一十二
州得卅三所蓋擬卅三身也是
乃西國巡禮之權輿也後雨以
未無貴無賤慕蘭生春蹤行此
禮者連綿不斷無或人告之曰
吾雖數回卅三而未知其來歷

云伊願師深毫示之寫余曰數
向耳頃而恒有健忘之癖故固
辭焉然屢請不輟因茲不憚默
止繙看之書雖不多竊考索曰
記採此拾彼闕生疑而採正斥
其似而撥實間加以口說管見
解以和訓名曰西國靈場記苟

脫^テ落^大宏才手^ニ曲^ケ賜^ヘ添^ニ削^ラ是余^カ所^{ナリ}
 廣^ニ幾^ニ也

採^ニ於^ニ毫^ニ活^ニ下^ニ九^ニ品^ニ蘭^ニ若^ニ窻^ニ下^ニ

厚^ニ譽^ニ春^ニ鶯^ニ欽^ニ識^ニ



源基定因會撰次



第一番

紀州年婁郡
 那智山

本尊

如意輪觀世音

二臂之坐像

開基禪形上人



紀伊國名州郡
紀三井寺
本尊十一面觀世音
御長一尺二寸
開基唐僧威光上人



紀伊國那賀郡
新河寺
本尊千手觀世音
御長一丈八尺
開基大伴氏孔子古



和泉國米尾山施福寺
仙樂院卜号
本尊彌勒菩薩
左右觀音文殊 四天王之像
開山行滿上人



河内國丹南郡
藤井寺
本尊千手觀世音
座像
開基 行基菩薩



大和國高市郡
壺坂寺
本尊如意輪觀世音
丈六坐像
開基報恩沙彌

卷一百一十五

12

觀音靈場記圖會一

西国世三所順禮の由來

抑西國三十三所といふ事ハこの頃よりわづかに徳川家の事をいふ
ゆゑ昔聖武帝神龜年中大和の公御成寺の開山徳道上人よりハ
智恵兼備の事と名僧としておぼしめさるべき如死なうか悟ち
なり官人二人上人のおあひまきう我の嫡魔さうの使かうとて
伴ひやうとの作らうとあらうと云ふた人と人ががや端々さう
いやとあまは辞退せつともとてわづかにあるとて人あり
のうに然れども人の友人さきさきとて案内ある御ゆるり
すさひさうさ遠くわづかに後継ありけうこそいへり
へ大門大殿あり結核なる年今退珠むとらぐらん
ひかりかやく有さるる事にも述ぐ利と人々大敵つたり
王出さるひく知をうきまをみぬ身をもたふのとてよ人
うやうやうなる事とてふとつてもよく存心りやと端々の

あう
わづら
はく
ひの
わづら
わづら

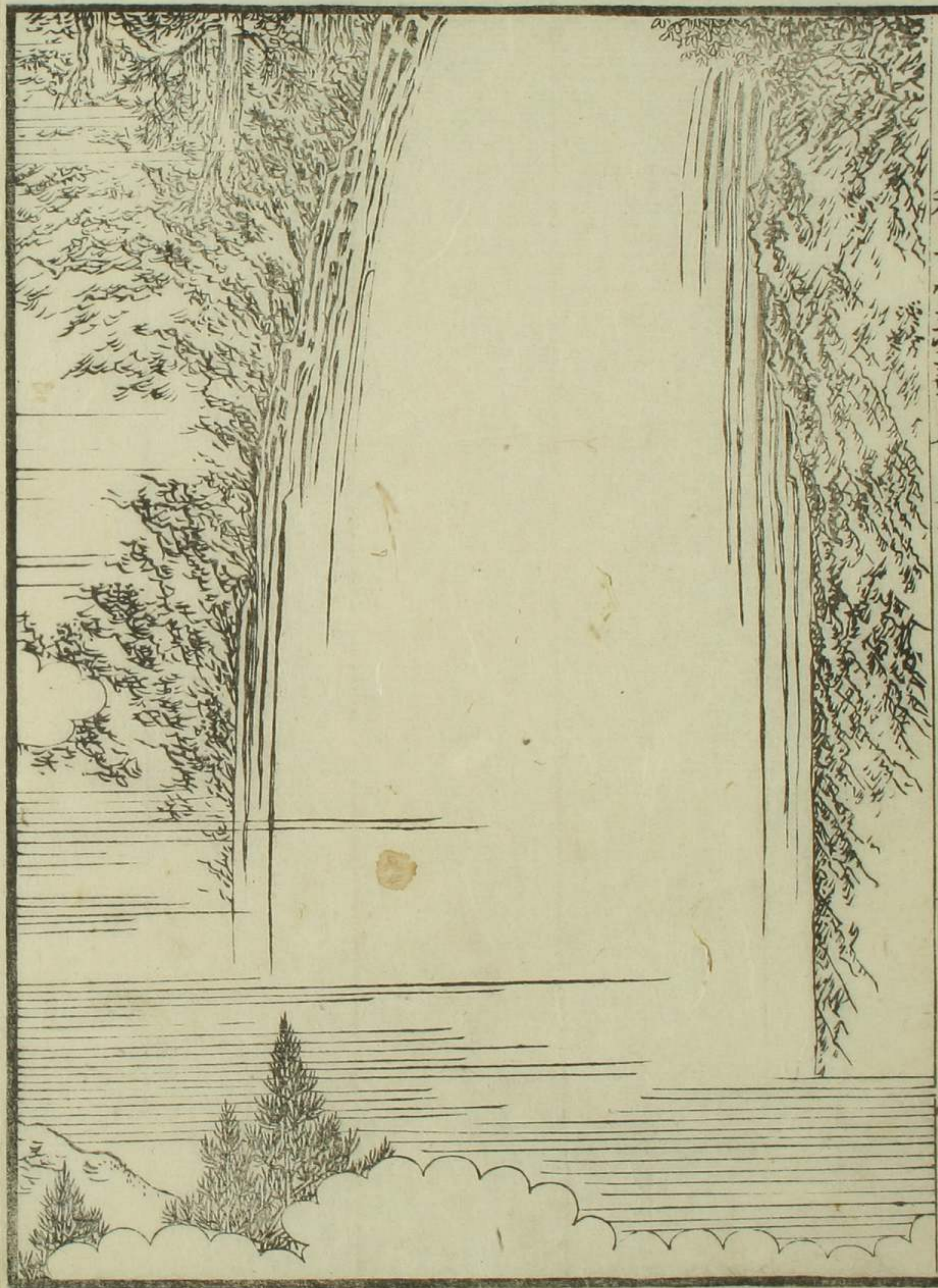


見音正書召己圖會卷一

雅齋

まゝの形に

現存世昌閣



續古今
かたれふ
くろく
おつ
はつせ
すくみの
ちんて
しんて

[illegible]

○
二番
同國紀三井寺

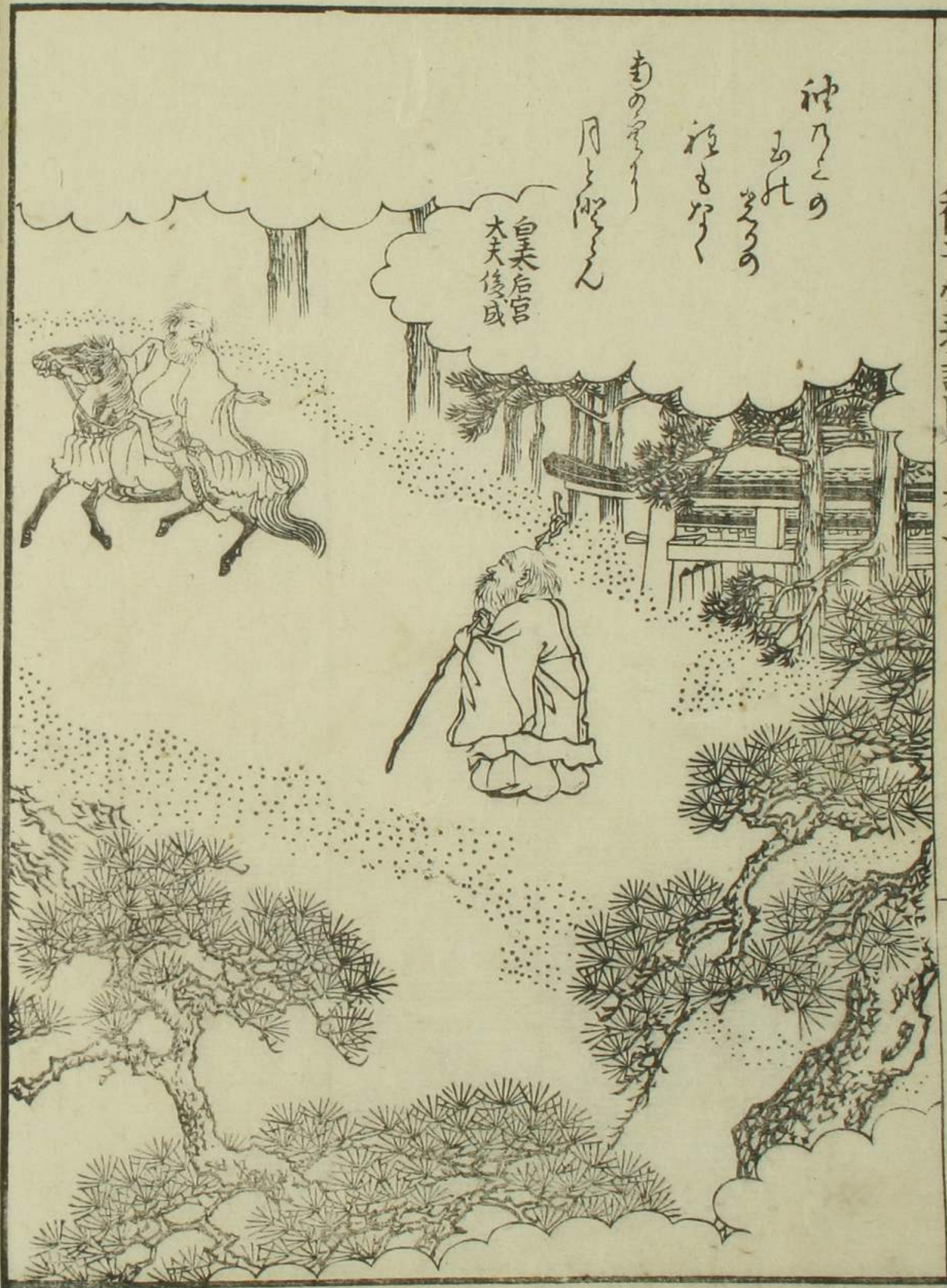
[illegible]

神乃この
あれ
まろの
ほもろ

あつろ
あつろ

あつろ
あつろ

皇太后
大夫人

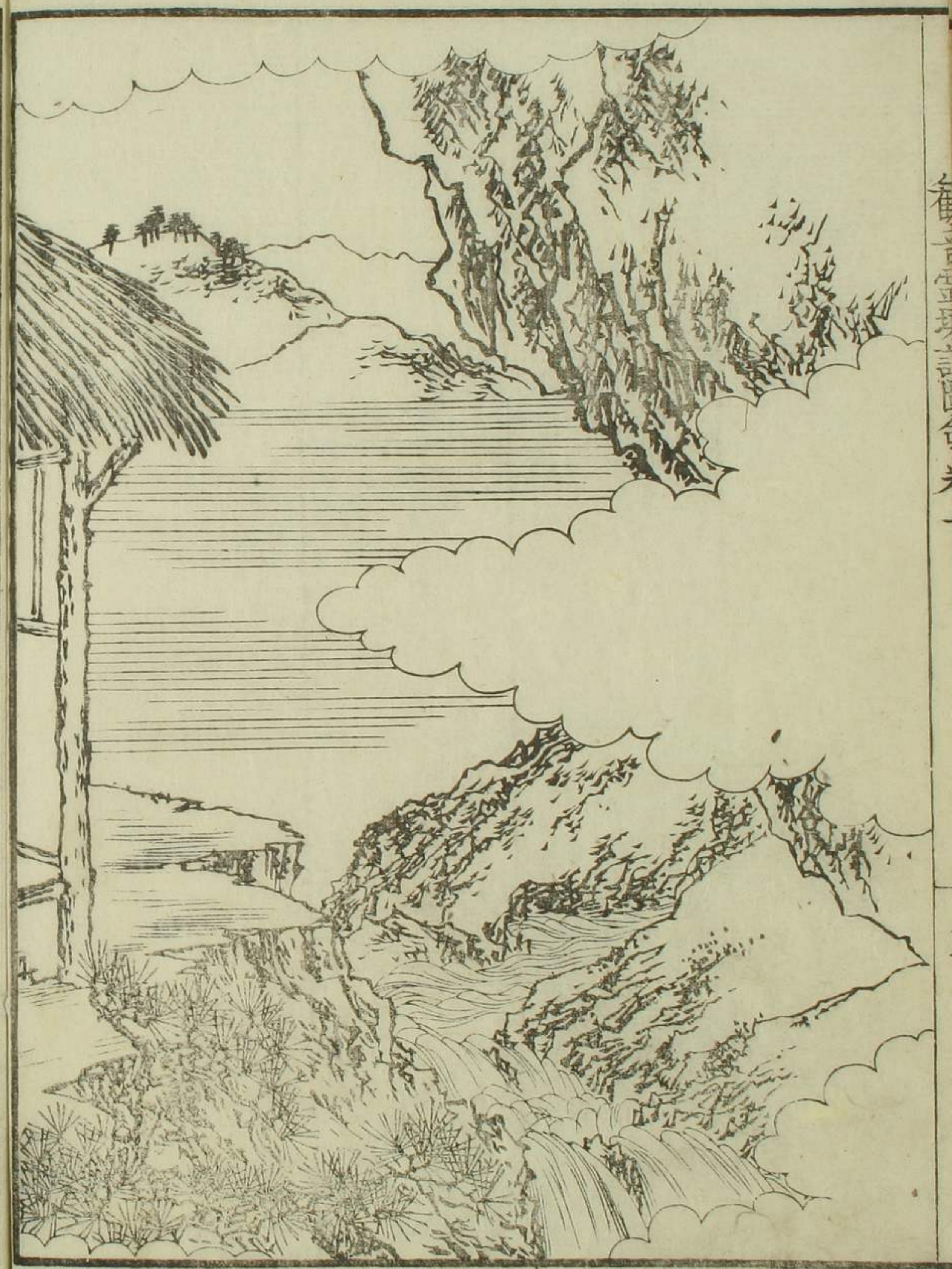


羅
圖

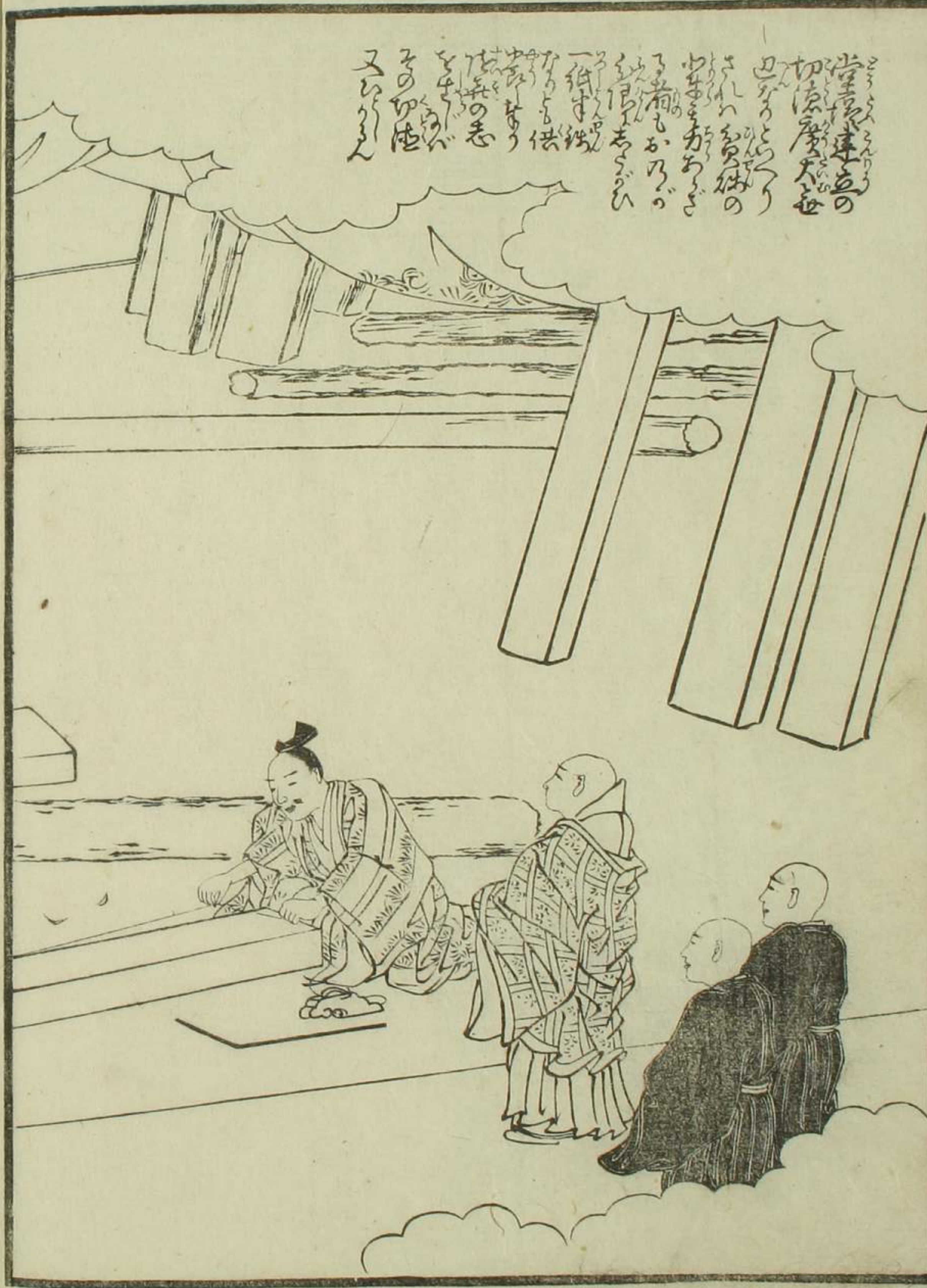


はろあ
うろあ
骨と
くま
ても
粉川の
水乃
い
ま
道遠院

羅
書

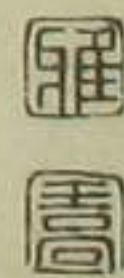
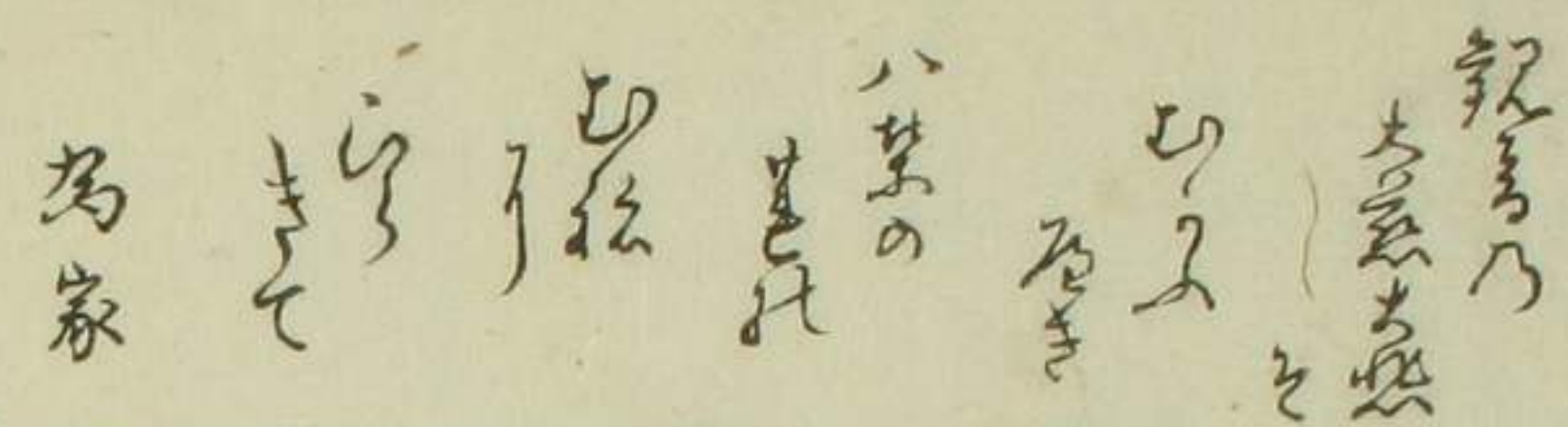


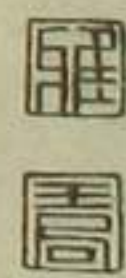
金瓶梅詞話卷之十一
金瓶梅詞話卷之十一
金瓶梅詞話卷之十一
金瓶梅詞話卷之十一
金瓶梅詞話卷之十一
金瓶梅詞話卷之十一
金瓶梅詞話卷之十一
金瓶梅詞話卷之十一
金瓶梅詞話卷之十一
金瓶梅詞話卷之十一



和泉國美尾山施福寺

[illegible]





平政長

うけ
き
なま
ら



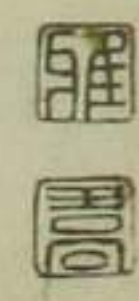
[illegible]

古韻

[illegible]

○ 六番
和州高市郡壺坂寺

[illegible]



四三

四十一

